

## 令和6年度総合教育会議 会議録（要旨）

- 開催日時 令和6年10月29日（火）午後2時00分～3時00分
- 開催場所 本庁舎2階会議室
- 出席者 藤原淳（市長）、加藤暢之（教育長）、槻館行男（教育委員）、阿部歩（教育委員）、佐々木千穂（教育委員）、荒谷直大（教育委員）
- 事務局職員 立花幸博（教育部長）、長畑宏範（副部長兼教育企画課長）、坂本真（学校教育企画監）、漆田千賀子（生涯学習課長）、柴田知二（文化財課長）、土屋美由紀（図書館長）、工藤裕介（給食センター所長）、千葉守（総務部長）、横館英昭（総合政策課長）、相馬剛（教育企画課主査兼教育企画係長）

### 1 開 会

（立花教育部長）

ただいまから、令和6年度二戸市総合教育会議を開会いたします。

本日の進行を務めます、教育部長の立花でございます。

なお、本日の会議終了時刻は3時00分ごろを予定しております。

本日の会議は、市長部局から、千葉総務部長と横館総合政策課長が出席しております。教育委員会事務局からは、長畑副部長兼教育企画課長、坂本学校教育企画監、漆田生涯学習課長、柴田文化財課長、土屋図書館長、工藤学校給食センター所長が出席しております。また、教育企画課から相馬主査が同席しております。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

はじめに、藤原市長から、あいさつをお願いいたします。

### 2 あいさつ

（藤原市長）

皆さん大変ご苦勞様でございます。選挙も終わりました、これからどういう補正予算や、新しい動きが出てくるか大変注目されるところであります。いずれ、どの党におきましても、こども子育て、文化財、様々なものにおいて実のある、どうすれば見える形になるのか。国も県もやらなければ、結局やるのは市町村ということになります。

私どもは学校再編、高校再編につきましてもいろいろ要望等を申し上げながら、校名は北桜ということになり、学科は確保したというところに来ています。

来年が第二次総合計画の最後の年になる予定で、今年が9年目にあたり、来年が10年目に入ります。この9年間何が起きたのかといえば、大きな変化はコロナをはじめ、GIGAスクール、あるいは学校トイレの洋式化、エアコンの設置等、機械の部分はどんどん進んでいったと捉えているところであります。

また文化財等についても、九戸城、浄法寺漆、天台寺といった折爪のホテルも含めて、文化財は光が当てられ、なんとか次の世代に繋げていこうと進めているところであります。

子どもの数が減っていき、学校統合というのは避けられない問題になってくると思いますが、父母会、父兄の皆さんの意見が一番子供に対して尊重されていると捉えておりますので、まずは子供たちがどうすれば学びの場を確保して幸せになるのか、一緒に考えながら進めていくと思います。

いずれ来年が第二次総合計画の最後の年であり、やり残したものは何か、あるいは今検討に入っていて次の第3次に向けてどうなのか、今後皆さんから議論いただいて進めていかなければならないと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

**(立花教育部長)**

ありがとうございます。

続きまして、加藤教育長から、あいさつをお願いいたします。

**(加藤教育長)**

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

市長、教育委員の皆様が一堂に会して行う会議の唯一の場でございます。教育行政のさらなる充実を目指しまして、皆様方から忌憚のないご意見を沢山いただければありがたいと思っております。今日はどうぞよろしく願いいたします。

### 3 議 題

**(立花教育部長)**

続いて議題に入りたいと思います。

ここからは、藤原市長に議長をお願いいたします。

**(藤原市長)**

それでは、今年度及び今後の主な取り組み事業等について、事務局より説明願います。

**(立花教育部長)**

はじめに私から、今年度及び今後の教育事業等の概要について説明をいたします。

(中略)

以上で説明を終わります。

引き続き、各課長から事業の詳細について説明いたします。

**(長畑教育企画課長)**

「1 学校教育の充実について」説明申し上げます。

(中略)

**(漆田生涯学習課長)**

「2 社会教育の充実について」、説明申し上げます。

(中略)

以上で説明を終わります。

**(柴田文化財課長)**

「3 文化財の保存の活用について」、説明申し上げます。

(中略)

**(藤原市長)**

説明が終わりました。

それでは、教育委員のほうからご意見を伺いたいと思います。

**(槻館教育委員)**

部活動の地域連携ということで、体育協会や、文化芸術協会との連携や関わり、話し合いは進んでいるのかどうか。指導者については豊富と感じている。

高校魅力化推進事業について、市で力を入れているようだが、成果はどうなっているのか。昨年から、何度か工業高校へ足を運ぶ機会があった。3年生の授業態度が非常に立派であった。1、2年については、姿勢が悪かったり、落ち着きがなく、私語があったりした。3年生になるにつれ、資格を取るなり、進路に向けて成長の姿が見られた。もっと積極的に発信して、実態を皆さんに知らせれば、すごく良い環境で学んでいるのがよくわかると思う。

昨年も申し上げたが、やはり学校の統合はできるだけ急ぐべきと思う。まず情報を提供して、市教委としての考えを打ち出し、地域の方たちや保護者にも時間をかけて理解をさせる方法を。どうしてもこの人数だと学ぶ機会の狭さがあり、もっと大きな人数の中で子どもたちの可能性を広げていければ。もっと市教委で学びの場を確保して、どうしたら子ども達が幸せになるかという観点で進め、もっと市民へ広めていく必要があるのではないか。

**(長畑教育企画課長)**

部活動の地域連携については、体育協会、芸文教との連携ということで、今後協議の場を設けていくと考えている。今のところは、各学校の校長先生と協議し、現在の部活動の形を基本としながら、拠点校方式を行う。また、スポーツ少年団当の枠組みを活用することで、ある程度市教委と学校とで考え方の方向性を示した。今後は、活動している中で、最終的には地域移行、移行先、活動の場というところで、体育協会、芸文教にも協力いただき、連携を図っていく。

高校魅力化について、福岡高校、北桜高校とも魅力化について発信している。今年の例でいうと、福岡高校については、学校のポスターを作成し各施設に掲示している。また、のぼりを校内、大会等で掲げて学校のPRをしている。北桜高校については、既存のパンフレットの作成を行っている。福岡高校では、中学校への説明で、これまで先生が行っていたが、直接生徒の声を届けたいということで、生徒会長が学校に出向いて説明の場を設けている。我々も支援をしているが、高校でも魅力化について発信をしながら考えている。

統合については、まずは組織立てをしながら、関係する皆様を集めながら協議をして対応していく。

#### (槻館教育委員)

部活動地域連携について、順番があるとは思いますが、もっと体育協会、芸文教との接触を図っていくことが大切ではないか。

学校統合について、統合までに組織を作る以前に、賛成や反対もあり、また関心がない人たちにもどう考えているか、状況等を市で発信する必要があるのではないか。

#### (藤原市長)

先日、福岡高校、北桜高校の文化祭に出席した。

北桜高校では、キオクシアやトヨタなどの企業に内定している生徒がいた。会社訪問等でその企業に魅力を感じ選んだとのことだった。生徒は、質問にも相手の顔を見ながらハキハキと答えているように感じた。また、一戸校舎の生徒ともお互い交流しながら仲良くやっている印象を受けた。

福岡高校は、国公立大に入る割合は県内でも高い。校舎を早く建て直し、生徒が市外に流出せず、地元に残りたいと思う環境整備や、企画を進めていかなければならない。

小中学校の統合に関しても同様で、基幹校となる学校は、生徒が行ってみたいと感じるような環境づくりや、設備が必要である。いずれ教育委員を含め話し合いを進めていくことになる。

#### (阿部教育委員)

保護者、また現役で子育てをしている立場から、不適応児童生徒への支援に関して、期待し感謝している。実際に教室に行けず別教室で勉強している生徒に対し、リモートで同じ授業を受けられる環境を整えていてくれる。先生方が忙しい中、親身になって話を聞いてくれていることに関して感謝している。令和7年度の取り組みに関しても、教育相談、支援体制の充実に関してとても期待をしている。自分も何か手伝えれば良い。どうしても成果が求められ難しいところではあるが、子どもたち、またその保護者も苦しいところがあるので、力になってあげられれば良いと思う。

専門職員を配置することも期待している。二戸市には優秀な保健師がいると認識しているので、横のつながり、福祉センター関係の職員、県の児童相談所などとの連携も今後強化していただきたい。また、市の人材だけではなく、民間で子どもたちの支援をしている事業所も利用し、市だけに負担を強いるのではなく、民間と一緒に子どもたちを支えていければ良い。

現在、実例はあるか。

#### (立花教育部長)

直接、横の連携、様々な状況、ケースに応じた対応の会議、その中で個別の部分も含めて情報共有しながらやっている。学校においても、現在も教職員だけではなく、県のスク

ールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携しながら、不登校の対応もしている。不登校になる前の、さまざまな不安への対応も進めている。なかなか対応していても増えているのが現状ではあるので、学校での対応を強化しながら、市としてもできる部分は手厚く対応していきたい。提案のあった、市の福祉の相談員も実際に学校現場や教育とも連携しながらやっている。今後それも含めて対応の仕方を考えていきたい。

**(藤原市長)**

小・中学校へ入学していきなり不応児児童生徒になるのではなく、幼児の頃から続いてくるので、保育士との連携や、情報の橋渡しをする必要がある。

子どもの精神的な問題は、今ますます重要になってきている。保健福祉を超えた連携は重要になってくると認識している。

**(佐々木教育委員)**

海外派遣について、生徒数が減ってきてから、浄法寺の場合は参加者を増やした。御返地中学校と統合したあたりから、1名から2名の派遣となった。人数が増えて研修させられるのは非常に良いことだが、研修費(旅費)もかさんでくる。生徒の人数が減って、参加者が増えるというのは分からない部分がある。

**(立花教育部長)**

確かに、海外派遣を開始した当初から児童数はかなり減少してきている。統合の関係もあり人数の見直しもしてきた。現在中学生は全体で10名、福岡中が6名、金田一中と浄法寺中がそれぞれ2名。そのほか高校生枠で4名となっている。旅費も値上がりしてきている状況の中で、このまま海外派遣として続けていくのが良いのかどうか、ということも含めて考えていかなければならない。

海外派遣のコンセプトとしては、田中館愛橘博士の足跡を辿りながら英語力の向上といったことを目的に実施してきた経緯がある。国内においても、さまざまな研修ができるような状況になってきている。これから変化の大きい社会の中で、今は限られた人数だけで実施しているが、例えば、英語力等にフォーカスしたような研修を実施していくなど、内容の見直しも含めて考えていかなければならない。現在の第2次総合計画、教育振興基本計画が令和7年度で終了するため、計画の検討と併せて、海外派遣についても再度今後の在り方について検討していきたい。

**(藤原市長)**

次の計画の中で見直しがかかると思う。地元の大先輩の活躍を学び、意欲を持ってやって欲しい。選ばれてから海外派遣に行くまでの間も、事前研修等などで一生懸命勉強していて素晴らしい。旅費が高騰している影響で、地元の愛橘博士にゆかりのあるグラスゴーではない、他の場所となると所以がはっきりしない。グローバルとローカルを学べる、グローバルな場所となるとなかなかない。今後次の計画で考えていくので、もう少し時間をいただきたい。

文化財課長から、九戸城について説明をお願いします。

**(柴田文化財課長)**

令和6年度の史跡九戸城跡の発掘調査を実施した。新聞報道でもあったように、石沢館の発掘調査で初めてとなる、本丸の方にある石垣が発見され大きな成果となっている。本丸にある石垣よりも残存状況がきわめて良いこと。また、石沢館はこれまで九戸一揆後に蒲生氏郷によって改修された場所ではなく、九戸氏の城そのままと言われてきたが、どうやら石沢館も含めた部分も福岡城、南部信直が居城した一部として使われていたということが明らかになった。

まだ確定ではないが、石垣を造るということは城郭の中でも、特別格が上な場所になっている。城主が出入りする通路、いわゆる大手の可能性はある。

また、城の橋と土橋を組み合わせた全体的な構造が明らかになる手掛かりとして見ている。詳細については、これから担当者を含めて、調査研究が必要になってくる。

**4 その他**

**(藤原市長)**

それでは、その他ですが、何かございますか。

**(長畑教育企画課長)**

その他、資料3についてお知らせします。

令和8年4月に開校を予定している特別支援学校の情報提供についてです。現在、市内小中学校に点在している特別支援学校が、北桜高校の工業校舎敷地内に、小中高等部一貫特別支援学校として設立が決定している。校舎について、高等部は現在使用している工業校舎を継続していく。小・中学部については、既存の体育館の北側、グラウンド敷地内一部に新設する予定。校舎は鉄筋コンクリート2階建てで建設予定。あわせて体育館も改修予定。

開校に向けて、現在、校名の一般募集をしている。

**(藤原市長)**

要望してから20年以上経っているか。ようやく実現した。二戸駅が近く、通いやすく良い。親しみやすい名前を付けていただければ。

そのほか、ございますでしょうか。

(なしの声)

本日予定している議事は終了いたします。

事務局をお願いします。

**5 閉会**

(立花教育部長)

ありがとうございました。

これもちまして令和6年度二戸市総合教育会議を閉会いたします。

大変お疲れ様でした。